



I N A C H O ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良

 <p>ロータリーの マジック</p>	<p>2024-2025 国際ロータリーのテーマ ロータリーのマジック</p>	<p>2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック <米国ペンシルバニア州></p>	
<p>第1716回例会 令和6年10月8日 (火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 伊那中央ロータリー讃歌 加藤篤ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・第16年度支援留学生 清水(王)利那様
- ・今年度支援留学生 キョ ブンクン様



■ 会長談話 熊谷健会長



今月は米山月間ということで、今日は、10数年前に当クラブの留学生支援事業で支援させていただいた清水利那さんに卓話をお願いしました。利那さん、後ほどよろしくお願ひ致します。

さて、我がクラブがこの「留学生支援事業」を始めた経緯については以前話しましたが、そもそも日中の国民が自由に交流することができるようになった、日中国交正常化について調べてみましたので、今日はその話をしたいと思います。

1972年9月29日、日本側から田中角栄首相と大平正芳外相、中国側から周恩来首相と姫鵬飛(キホウヒ)外相とが、日本が戦争責任を認め、中国は賠償請求権を放棄する等の内容を盛り込んだ「日中共同声明」に署名し、日中国交正常化が成立しました。

当時は、米ソを中心とする資本主義と共産主義の対立が激しい時代で、資本主義国である日本と共産主義国である中国は、隣国同士でありながら国交を結ぶことが難しい状況でした。その両国が繰り返し交渉を重ね、漸くたどり着いた共同声明でした。

国交正常化交渉の日本側のキーマンは大平外相でした。晩餐会で田中首相が「過去数十年に亘って、日中関係は遺憾ながら不幸な経過を辿ってまいりました。この間、我が国が中国に多大なご迷惑をお掛けしたことについて、私は改めて深い反省の念を表明するものであります。」とスピーチしました。しかし、通訳による翻訳の言葉遣いからか、この「迷惑をお掛けする」という言い方が、非常に軽い表現(例えば、誤って水をこぼして相手の衣服を濡らしてしまっでごめんなさい、というような表現)で伝わってしまい、中国側

が不快感を示し、周恩来は懸念を表明しました。交渉が成立しない危機を招いたそうです。

そこで、大平外相は、車中で姫鵬飛外相と直接二人だけで話し合う機会を求め、通訳を含め3人だけで話し合いました。その通訳の話によると、大平は「私の目で見ただの戦争は、明白に中国に対する侵略戦争であった。しかし、あくまでも私個人としての想いだ。お互い国を背負っているのだから、公にそのようなことはいえない。私は、この交渉で最大限の譲歩をしても日中国交正常化を実現するつもりだ。政治生命をかけてもやり遂げる。この思いをどうか周恩来首相に伝えていただきたい。」という趣旨のことを、目に涙を溜めて訴え、それを聞いた姫外相も通訳も、大平の並々ならぬ決意に胸を打たれ、周首相に伝えたということです。

一方、中国側のキーマンは周恩来首相です。周恩来は日本への留学経験もある親日家で知られています。中華人民共和国（中国）の建国に際し、日本軍の捕虜に対して、早期釈放を促し、最初の日本人戦犯裁判で、起訴155人、死刑7人、執行猶予付死刑3人の刑が確定していたものを、周恩来の指示で、これらの戦犯に対し起訴51人、死刑、無期懲役なし、有期刑4人と減刑しました。あまりの寛大な処置に捕虜管理所職員や収容所スタッフから反発が出たけれど「復讐や制裁では苦しみの連鎖は切れない。今は分からないかもしれないが20年後、30年後にわかる。」と諭したという話があります。

日中共同声明にあたり周恩来は「日本人民と中国人民はともに日本の軍国主義の被害者である」として、過去から未来志向へ向かうことを提唱し、「日中両国には、様々な違いはあるが、小異を残して大同につき、合意に達することは可能である。」と宣して、国交正常化を実現しました。

詳しい話をしていない時間はありませんが、日中国交正常化は、その10年前に締結された日中の民間主体の貿易協定である LT 貿易協定による両国の民間レベルの相互理解の蓄積と、思想や文化の異なる両国の政治家の譲歩と熱意がなければ実現しなかったものと考えます。

そして、国交正常化が、現在の両国の留学生の交流や、両国民の活発な観光やビジネスの交流を通じ、お互いの信頼を築き上げてきました。

今、残念ながら、政治レベルでの日中関係は冷ややかになっています。尖閣諸島の領土問題の再燃や、領空権の侵犯、日本人学校の生徒が殺され、中国は犯人の属性や動機を明らかにしない事件など、日本人の気持ちの中に、中国政府に対する不信感が増幅し、国家間の信頼関係が脆弱になっているように思われます。

しかし、これは政治レベルで解決を図る問題であり、私たちは、日本人や中国人を人として論じるべき問題ではありません。国籍や文化の違いを、その個人の個性として理解し、受け入れることが我々ロータリアンにも求められています。

■ ニコニコボックス

- ◆熊谷健 今日、第16年度支援留学生 清水利那さん ようこそお越し下さいました。卓話をよろしくお願ひ致します。また、今年度の支援留学生のキョ ブンクンさんもようこそ。がんバッテ研究してますか？
- ◆小椋文成 王利那さん 本日はありがとうございます。キョさん ようこそお越し下さいました。よろしくお願ひします。
- ◆伊藤かおり 第16年度支援留学生 王利那さん、今年度支援留学生 キョ ブンクンさん。今日はようこそお越し下さいました。王さん、卓話お願ひします。
- ◆伊澤和男 本日は清水様 卓話ありがとうございます！
会員の皆様、米山へのご協力お願ひ申し上げます。
- ◆馬場秀則 クラブフォーラムで支援留学生 王利那さんの卓話をお願ひしました。よろしくお願ひします。
- ◆杉本徳治 第16年度支援留学生 清水さん、今日はようこそお越し下さいました。卓話をよろしくお願ひします。
今年度留学生のキョ ブンクンさん、お越し下さりありがとうございます。楽しんでいってください。

■ 幹事報告

小原文成幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。



■ 委員会報告

・10月6日（日）会長エレクト・次期幹事研修の報告

井上修会長エレクト



10月6日、松本にて13時より16時半まで概ね参加者100名程で行われました。当クラブから加藤次期幹事、会長エレクト井上が出席。伊藤パストガバナーの「会長になるという事はガバナーになれるという事です」という挨拶で始まり、桑澤、古川パストガバナーから行動計画推進について、2600地区の状況説明、小林ガバナーエレクトから小林年度の紹介がありました。分科会もあり上伊那地区が一堂に会し各々の状況説明が行われました。



■ 出席報告

会員数46名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者27名 事前メイク1名
出席率70.00% 前回出席率 修正な

■ クラブフォーラム

「米山記念奨学委員会」

・副委員長あいさつ・卓話者紹介

馬場秀則米山記念奨学副委員長



米山委員会副委員長の馬場であります。

委員長が紹介するところでありますが、伊澤委員長は卓話終了後に米山支援金のお願ひがあるので、紹介は副委員長がやるよう命令され私から卓話者の清水利那さんを紹介します。

今月の RC 米山月間クラブフォーラムは、卒業者の話を聞いたらということで、旧姓 王利那さんが松本にいるから連絡してみましようということに成り、連絡したら米山でなく、伊那中央 RC の支援留学生とのことでした。

米山にしる、支援留学生にしる、卒業生の話を聞けることは大変良く素晴らしいということで、本日の米山クラブフォーラムの卓話をお願いすることに成りました。

旧姓王さんは、南箕輪村に住んでいましたが現住所は松本で、しかも清水という名前に成ったので、松本で清水さんと結婚したのかと想像しておりましたが、まだ日本では結婚していないとのこと。そこら辺のこともお聞きしたいと思います。

今、中国と日本の関係は決して良い関係ではないと思いますが、中国指導者の問題で、国民すべてアンチ日本というわけではないと思いますので、宜しくご清聴頂きたいと思ひます。

卓話者の紹介はこのくらいにして、伊那中央 RC として支援留学生事業を始めたきっかけは、米山奨学生に一人15万円支援しているのを半分にして二人の支援にならないかと訴えたがならないとのこと、それでは留学生が増えない、ということで、伊那中央 RC 支援留学生事業が始まりました。

以来53名の支援留学生がおられると思ひますが、その中の一人でございますので、宜しくお願ひいたしまして卓話者の紹介とさせていただきます。

・卓話 第16年度支援留学生 清水利那様



皆さんこんにちは。清水利那と申します。信州大学農学部留学時、平成14年、西暦2002年の伊那中央ロータリークラブの支援留学生の王利那です。その時は大変お世話になりました。ありがとうございました。

まず、自分の留学の経緯を説明させていただきます。うちの兄が勤めている中国の河北医学大学は、松本歯科大学と姉妹学校です。お互いに訪問することが多いため、35年程前から兄がよく出張で信州に来ていて、信州の町とても綺麗、日本の方々が礼儀正しく、親しい、という話をよく聞きました。兄のおかげで、兄の奥さんと私が信州大学農学部で、兄の娘、私の姪子が千葉大学医学部で、私の娘が、日本大学で留学することになりました。私の家族皆日本のことが大好きです。

続いて、支援留学生の時の思い出のお話です。1つ目が、マレットゴルフ大会の思い出です。ご縁がありまして、馬場先生と馬場先生の奥さんと私が同じチームでした。奥さんからルールとやり方をご丁寧に教えて頂きました。喋りながらボールを打って、楽しい時間を過ごすことができました。2つ目が、2003年6月、馬場先生よりオリンパスの中国語講師のアルバイトを紹介して頂きました。その年のオリンパス祭りで留学生の友達5人がギョウザ、肉まんを作って中華店を開いて、全部売れました。伊那中央ロータリークラブの方々も応援に来て頂いたおかげです。そして、オリンパス中国語教室の方々与中国語を話すことも出来て、良い経験をさせて頂きました。

信州大学卒業後、伊那ハローワークに登録して、契約社員の形で約2年位通訳の仕事をしていましたが、研修生が中国へ帰りましたので、新しい勤め先を探さなければならなくなりました。そこで、馬場先生に電話して「助けてください」とお願いしました。馬場先生に直ぐにルビコン株式会社を紹介して頂きました。

正社員で2007年から今年まで17年間ずっとルビコン株式会社で働いています。2011年からルビコン株式会社で約9年間中国語講師になり、コロナの影響でやむをえず中止になりました。4年前から、購買部でサプライヤーに関する貿易仕事をしています。

ルビコン株式会社のお陰で11年前に帰化して日本の国籍を取れましたし、4年前に松本市で一軒家を建てました。今後も仕事を頑張りたいと思っております。

まとめて言うと、

私は、伊那中央ロータリークラブの支援留学生でなかったら、今の私はいないです。

伊那中央ロータリークラブの支援留学生制度が、日本に貢献していると思います。

ご清聴ありがとうございました。

・委員長卓話 伊澤和男米山記念奨学委員長



米山梅吉記念館に行つて参りました。正面には昭和6年に開花し、今年令和6年に、数十年に一度しか花を咲かせないと言われている竜舌蘭が高々と出迎えてくれました。

館内にはロータリーの歴史が多くの資料と共に展示され、どのように日本に広まっていたか年代もよく分かりました。能登の七尾などは早くに加入され、我々はその他63とのおようです。

会館裏手のそう離れない場所に米山家の墓地もあり、一角に米山梅吉氏の墓もあり、墓参してまいりました。「いさかいもなき漫々の春日かな」の平和を愛した、米山梅吉さんの生涯を知ることができました。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

10月20日(日) 集合/9:50 場所/ますみヶ丘公民館

- ・地区補助金事業「未来へとつなげる森林づくり」
- ・ポリオデー